

# アユ優良種苗候補に対する漁協の評価

福島県内水面水産試験場 調査部

## 1 部門名

水産業—内水面（増養殖）—種苗放流—アユ

## 2 担当者名

山田 学

## 3 要旨

東日本大震災後、壊滅した本県のアユ種苗生産体制の再構築のため、種苗生産施設の復旧とともに、県産アユによる放流シェアを回復する必要がある。シェア回復の切り札として、放流効果の高いアユ優良種苗を創出するため、遺伝的選抜を試行した優良放流種苗候補を漁場に放流し、釣獲性、滞留性を調査するとともに漁協の評価を聞き取った。その結果、優良放流種苗候補は、概ね釣獲性、滞留性が優れ、高評価が得られた。

- (1) アユ優良放流種苗候補を県内4河川に放流し、2022年6月18日～8月23日の期間に各河川2～3回友釣りによる釣獲調査を行うとともに常時水温を測定した。
- (2) 釣獲性、滞留性は概ね高い結果が得られ、成長は全河川良好であった(表1)。
- (3) 漁協評価として、追いが良い、入れたらすぐかかるなどの声が多く聞かれた。水温が低すぎた場合(C川の漁期初め)、漁期前に魚群が上流に分散し、漁場分布尾数が低すぎた場合(D川)に評価が低くなっていた(図1)。

表1 河川別調査結果

目的	指標	A川	B川	C川	D川
釣獲性	遡上性 <sup>※1</sup>	○	○	○	△
	釣獲尾数 <sup>※2</sup>	○	○	△	×
	漁協評価 <sup>※3</sup>	○	○	△	△
滞留性	釣獲	○	○	○	×
	魚影継続 <sup>※4</sup>	○	○	○	×
成長性	良好か <sup>※5</sup>	○	○	○	○

指標とした内容

- ※1 放流直後の遡上と放流地点上流への分布拡大が見られたか
- ※2 1人1時間あたりの釣獲尾数(図1)
- ※3 これまでの種苗と比較して追いが良好かを聞き取った結果
- ※4 漁期後半まで釣獲(図1の傾き)と魚影視認が継続するか
- ※5 成長に停滞が見られないか

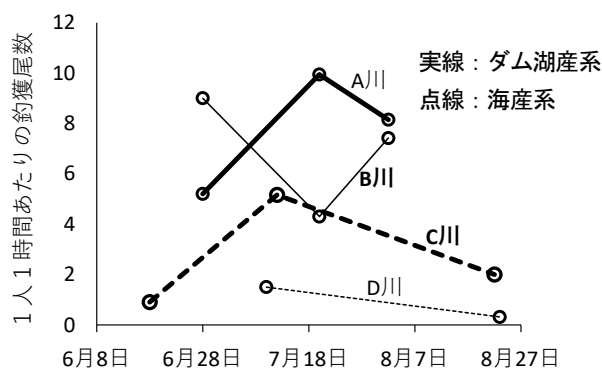


図1 釣獲尾数の変化

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 先端技術の社会実装(令和4年度農林水産分野の先端技術展開事業のうち社会実装促進業務委託)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 上野山 大輔, 漁場環境からみるアユ漁場としての妥当性, 普及に移しうる成果, 福島県, 2021.

※本研究は農林水産省委託事業「農林水産分野の先端技術展開事業のうち社会実装促進業務」の成果である。